

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立飯能高等学校定時制の課程)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自律性、社会性の伸長 2 基礎・基本の定着と進路指導の充実 3 保護者や中学校との連携強化と学校情報の積極的な提供
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<p>・本校生徒の現状は、小・中学校時代に不登校等を経験した生徒が多く、学校に不信感を持っている生徒・保護者も少なくない。生徒・保護者に信頼され、生徒が安心して登校する学校として期待されるためには、生徒指導や教育相談が効果的に機能することが必要である。</p> <p>・生徒の自主性・自律性・社会性を育み伸ばすためには、生徒と職員の信頼関係を構築し、教科指導のみならず、学校行事・部活動等の特別活動も重要である。</p>	生徒が学校行事・部活動に主体的にかかわっていく指導をとおして自立できる力を育む取り組み。	<p>①定期考査ごとに設定している個別面談のほか、高校生自立支援事業を通じ生徒理解に取り組み、学校行事に主体的に関わることが出来ているか振り返りを行う。</p> <p>②遅刻率減少に向け、遅刻の基準や統計データを共有し、継続して指導方法の改善に取り組む。</p> <p>③学校行事・部活動をとおして生徒間の親交を一層深め、他への配慮ができるようにする。</p> <p>④外部機関と連携した教育を行う。</p>	<p>①個別面談や高校生自立支援事業の実施によって学校行事に主体的に関わるきっかけとなったか。</p> <p>②継続的な指導方法が確立し、遅刻率減少のきっかけとなったか。</p> <p>③生徒間のコミュニケーションが適切に図れ、自主性・自律性・社会性の伸長が見られたか。</p> <p>④外部機関との連携が図られた教育活動が実施されたか。</p>	<p>学校行事や部活動をとおして自立する力を身に付けさせることができた。</p> <p>①今年度も年度当初の三者面談に始まり、各考査後に加え必要に応じた面談を実施している。</p> <p>②遅刻回数を集計・グラフ化し、遅刻減少の意識を高めている。</p> <p>③コミュニケーション力の向上を目的とし、班行動を重視した遠足を実施した。陸上部4名全国大会出場、野球部・バスケット部は合同チームで大会出場を果たした。</p> <p>④進路ガイダンス・非行防止教室・在り方生き方教育で外部講師を招聘し見聞を深めた。高校生自立支援事業も順調に実施した。</p>	A
2	<p>・大半の生徒が小中学校の段階で学習につまずいた経験をもつ。学習意欲に課題がある裏には学習面における成功体験の少なさも要因の一つと考えられる。</p> <p>・わかる・できる体験を積み重ねることが重要である。学校生活の4年間の学習活動が、卒業後のより良い社会生活につながるよう留意することが必要である。</p>	生徒一人ひとりに対して、わかる・できる学習指導を充実させ基礎基本を定着させる取り組み。	<p>①授業実施率のアンバランスを解消した特別時間割を作成する。また従来の行事を見直し授業確保に取り組む。</p> <p>②学習サポーターを活用してわかる・できる体験をさせ、学習意欲の向上を図り、欠点保有者の減少に取り組む。</p> <p>③本校の進路指導を継承しつつ、アドバイザーとの連携を深め生徒の進路実現を図る。</p>	<p>①効果的な特別時間割が作成され、授業確保がなされたか。</p> <p>②わかる・できる実感を持ち、学習意欲の向上が見られ、欠点保有者が減少したか。</p> <p>③アドバイザーとの連携は深められ、進路保障ができたか。</p>	<p>行事計画を見直し授業時間を確保したことで、わかる・できるを実感させることができた。</p> <p>①授業実施率平均化を意識した特別時間割の作成・行事实施時期の見直しにより授業確保がなされ、手厚い考査対策ができた。</p> <p>②教員同士の授業見学会・意見交換会を実施したことにより授業改善がなされ、欠点保有者は減少している。</p> <p>③アドバイザーとの連携を密にし、役割分担を明確にした。進路状況は進学3名、就職5名である。</p>	A
3	<p>・定時制の特性を中学校・地域に十分浸透させるまでには至っていない。より一層連携を深める必要がある。</p> <p>・保護者には学校行事への参加を促し、保護者との連携で教育改善を図る。</p>	保護者および中学校との連携を深め、働きながら学ぶ定時制教育を一層充実させる取り組み。	<p>①学校説明会・中学校訪問を実施し、定時制を正しく理解してもらう機会とする。</p> <p>②学校HPを更新し、学校情報を積極的にPRできたか。</p> <p>③PTA下校指導を年間2回実施し、保護者と連携して指導にあたる。</p>	<p>①学校説明会・中学校訪問で定時制の特性が理解されたか。</p> <p>②組織的なHP更新が50回以上でき、定時制のPRとなったか。</p> <p>③保護者の定時制への理解が深まり、協力が得られたか。子どもの成長を保護者が実感できているか。</p>	<p>地域や中学校に定時制の存在意義を浸透させることができた。</p> <p>①11月の学校説明会は13名参加。1月の中学校訪問は2校増やした。個別説明会は10件以上対応している。</p> <p>②これまで学校行事関連の更新のみで70回を超えている。中学生および保護者にとって必要な情報を随時更新している。</p> <p>③保護者の協力を得てPTA下校指導を2回実施。学校行事および外部講師招聘の行事については保護者参加を呼び掛けている</p>	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和2年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>部活動や学校行事を通じて自立できる力は着実に育まれており、中退防止繋がっている。今後もより一層の工夫を凝らし、生徒の力を引き出す丁寧な指導をお願いしたい。</p> <p>授業時間の確保、授業改善の取り組み、学習サポーターの適正配置、就職支援アドバイザーとの連携等の効果が徐々に表れ、生徒一人ひとりに対応できている。今後も教職員が一丸となり、生徒の指導に取り組んでほしい。</p> <p>学校説明会や中学校訪問を更に工夫して実施してほしい。継続的にホームページを改善し定時制理解に努めてほしい。</p>	